

千秀だより

横浜市立千秀小学校 令和3年(2021)5月28日

6月号

URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/



こころの距離を近づけて

副校長 國司 香織

4月にこの千秀小学校へ着任して、約2ヶ月が過ぎようとしています。例年より早めの梅雨入りが心配されるなか、明日の運動会に向けて、子どもたちも先生方も熱心に練習に取り組んでいます。まだまだ感染症拡大に予断が許されず、十分な間隔をとり、大声は出さないなどの制約が多い開催となりますが、生き生きと輝く子どもたちの姿を直接見ていただける大切な機会のひとつとして準備しております。来賓として声援を送っていただいていた近隣校や園の先生方、地域の皆様には、ご参観をご遠慮いただいております。次号になりますが、千秀だよりにてその様子をお届けできればと考えております。まずは、明日29日の天気が晴れでありますようにと、願うばかりです。

私は、着任式で子どもたちへ「たくさんのあいさつを交わしましょう。」と、あいさつしました。子どもたちとあまり接する機会がない副校長として、できるだけ目と目を合わせてつながりをもっていきたいと考えています。その第一歩はあいさつだと思ったからです。早速、その日の日中には、「副校長先生、こんにちは。」と元気なあいさつをしてくれる子どもがたくさんおり、着任早々、気持ちが温かくなりました。

別のある日、職員室に鍵を取りに来た6年生に「ソーラン節、がんばっているね。」と声をかけました。すると、「ありがとうございます。」との言葉が返ってきました。これにも心がほっとしたのと同時に少し驚きました。これまでの勤務校では、低学年の子どもは元気にあいさつを返してくれますが、学年が上がるにつれて、照れくささが勝ってしまうのか、あいさつの声は減ってきてしまいます。もちろん、会釈だったり、返事だったりはあるのですが、それが、今回は、まっすぐと「ありがとうございます。」という言葉が返ってきたのです。

着任から2ヶ月、はじめに感じた千秀小学校の子どもよさは、「素直にまっすぐとしたあいさつができる」ということでした。「あいさつをしましょう。」と言うのは簡単ですが、日頃から意識して、続けていかなければ身につかない習慣です。でも、千秀小学校の子どもたちは、幼いころから家の方と、地域の方と、先生と、友達と、日常の中であいさつを交わし、習慣として、当たり前のこととして積み上げられてきたものだと感じます。自然と素直に行える子どもたちは、とても幸せで、大人になっても持ち続けられる大切な宝だと思います。

「密閉・密着・密接」の3密を避けることが求められている昨今ですが、子どもたちといっしょにまっすぐなあいさつを交わし、こころの距離を近づけていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。